

スマトラ農村開発プロジェクト

5 伝統の織織りの技術を生かし生活を向上させたい!

インドネシア・北スマトラのタルトゥンに、わかちあいプロジェクト・インドネシア事務所を構え、現地の子代表を中心に、今年から新しいプロジェクトを開始しています。



宇野 さん



ウロスを織るチボラさん

スタットのリパさんとアレクさん



現地の農夫さん

プロジェクトの目的

北スマトラ・タバナリ・ウタラ地区の産業を活かし、その市場をより開かれたものとし、地域住民の生活の向上を図ることを目的としています。

1. 地域の特産品であるリントン・コーヒー輸出のための農家への指導と、自立の支援。そのために必要と機械類の支援、国際マーケットにアクセスできるように品質向上の指導。

2. 戦時中に日本から導入された綿の栽培が行なわれていたことから、その産業の復興とマーケット確保のための支援、ウロスと呼ばれる現地の独自の織物の技術と融合した製品作りと販売促進による収入向上。

3. 日本から古着を輸送し困窮者に配給すると同時に、残りの古着を地元で販売し、売上金を奨学金として活用する。

4. 陶芸教室を開講して、お土産品として新しい地域産業を興すための試み。

5. 特産品展示販売センターを開設し、陶芸品、特産品開発の促進と古着販売。

ウロスと綿花栽培について

タバナリ・ウタラ地区では、北スマトラのバックパッカーの装束ともされる「ウロス」という織物が生産されています。ウロスは長さ2メートル、幅のセンチほどの大きさで、色とりどりの糸を巧みに織り込んで、落ち着いた色合いを備えています。冠婚葬祭、記念式典、教会での礼拝出席の際などに肩から斜めに掛けて使用

されます。ウロスは市場や専門店で販売されており、何かの折につけ贈り物としても用いられるものです。綿花栽培はここでは機械織りされていますが、タルトゥンでは手織りで1枚1枚にきめ細かい仕事なされています。独自の伝統的な柄から、最近の柄まで幅広いデザインがあります。また肩から掛けるばかりでなく、バッグや服にもその技術が生かされています。機械織りされるものは多少柔らかさがありますが、手織りの場合はいっぺり織り込んであるため、かなり硬質なものとなります。手織りの技術は、母親から娘へと伝承されていますが、かなり細かい作業で日ごまな負担がかかるため、高齢者向けの仕事ではありません。そのため中学、高校生ほどの年齢で卒業後、農業をしている割合が高く、高校卒業後、農業としている家庭も比較的多いようです。機械織りの場合は1日で約1本が織り上げられますが、手織りの場合は1日8時間労働として約1ヶ月を費やします。機械織りの場合の工賃が1本につき1,000ルピア、手織りの場合が300,000ルピアそれぞれ日本円で14円、4,280円で相当します(1円=70ルピアとして)。

また、オーガニックコットン(無農薬有機栽培の綿)を中国で栽培し、商品化する実績を持つ(株)益久染織研究所の岡田益久氏の協力を得て、種を探究していただき、今後の事業も進めていく計画です。それに向けて、シボルガ地区では綿の機械栽培を開始しています。これは戦時中に日本がパヌマリ地区にて綿の栽培を奨励していたという地があるためです。終戦と共に綿の栽培は衰退してしまいました

が、今回復興することによって、現地での労働力の向上を高めることが出来ます。当時栽培が行なわれていた海沿いのシボルガまたトガ周辺は、綿の栽培に適した水はけの良い場所で、現地には戦時中に綿の栽培が収穫に専事した人もおり、導入がスムーズに進むと考えられます。現地の人の話では、綿は挿播後約4ヶ月で収穫することが出来るとのこと、収穫し紡いで糸としたい段階で、上記のウロスの技術を生かして、タバナリ・ウタラ地区のオリジナル商品の製作、また日本向けにオーガニックコットン製品を製造することが出来るのではないかと考えています。(宇野)



ウロスを織る女性

わかちあいプロジェクト募金に

ご協力ください

■エリトリア、コンピュータ訓練校に新しいコンピュータを!

1997年にわかちあいプロジェクトが支援して立ち上がったエリトリアのデカムハレのコンピュータ訓練校。コンピュータ50台とプリンタやスキャナなどコンピュータ関連機器の支援とともに、講師として日本から岡安智生さんを8ヶ月間派遣するなど、立ち上げに全面的に携わりました。その後は、学校立上げにも取り組んだエリトリア政府の教育省に学校の運営を引き継ぎましたが、この数年、岡国エチオピアとの国境を巡る紛争の激化により、生徒たちも徴兵されるなど休校を余儀なくされてきました。

紛争の鎮火に伴い再開に向けて準備が進む同校を、今年また、わかちあいプロジェクトが応援することになりました。古くてもっとも設立当初のコンピュータ(そして中古品でした)に変わり、新たに8台(90万円)のコンピュータを支援します。

■インド大地震から約2年 学校再建、ついに着工!

2001年1月26日に発生したインド西部地震は、死者約26万人、負傷者16万人以上に及んでいるほか、家屋損壊数は100万戸以上に達するなど未曾有の規模の災害となりました。わかちあいプロジェクトは、3月1日から1ヶ月間、3名の土木技術者を現地に派遣し、支援活動に参加すると共に、学校再建のための調査を行いました。25ヶ所の村と、それらの学校の被害状況、その他のデータ等を調査し、特に被害が大きく、その上今後の再建の目的が立っていき、援助が必要であると思われる村に小学校建設を計画しました。この度、39,000ドルの予算で、ルナバ村に工事をすすめることになりました。



わかちあいプロジェクトの活動の様子

どを行いました。わかちあいプロジェクトの「紅茶はすずし長いファンファンの上1」とか「フェスティバル初日に購入したダーズリンジャ、カーデガ、セーター、コートなどオールド、シューズ等」

◎古着の状態：洗濯に出したもの、あるいは自分で洗濯してアロンをかけたものにてくください。汚れや傷みがないものは不可。

◎古着の目安：タンポール、4000個以上(4.0リットルコックナフ)

◎送 先：大田区深溝馬場1-2-2 ヤマト運輸 (株) 内海通(03-3759-1921)

わかちあいプロジェクト (現地の持ち込み可、ヤマト便以外でもOK)

◎受付期間：2003年6月2日(月)～8月14日(土) (この期間に到着するようにお送りください)

◎タンポール年輪の大きさ：引越し用段ボール箱のおおきさまで(縦・横・高さの合計が1.5mまで)

◎送料募金のお願い
ダンボール1箱あたり、1,500円(荷物と一緒に送料を返されます。そのままだんボールまで送られてしまいます。ご面倒ですが郵便振替でご入金ください)

2003年の募金目的と目標額

●難民支援 1000万円
難民支援プログラム 吉着などのコンテナ費用

●自立支援 500万円
カンボジア学校建設
エリトリアプロジェクト
インドネシアプロジェクト

●その他
募金目標額 1500万円

募金の送金先

郵便振替口座

わかちあいプロジェクト募金

00130-7-762258

第11回 2003年度 古着支援要項

2003年も以下の要項に従って古着を集めます。ご協力のほうよろしくお願いたします。送先と受け付け期間を間違えないようお願いします。衣料品以外のものは対象外ですので御了解ください。

◎支援先：タンザニア、キボンド難民キャンプ、インドネシアなど

◎古着の種類：子供と大人の衣類(夏冬ものすべて)ズボン、ティッシュ罩、スカート、ワイシャツ、ジーパン、背広、トレーナー、ジャージ、カーデガ、セーター、コートなどオールド、シューズ等

◎古着の状態：洗濯に出したもの、あるいは自分で洗濯してアロンをかけたものにてくください。汚れや傷みがないものは不可。

◎古着の目安：タンポール、4000個以上(4.0リットルコックナフ)

◎送 先：大田区深溝馬場1-2-2 ヤマト運輸 (株) 内海通(03-3759-1921)

わかちあいプロジェクト (現地の持ち込み可、ヤマト便以外でもOK)

◎受付期間：2003年6月2日(月)～8月14日(土) (この期間に到着するようにお送りください)

◎タンポール年輪の大きさ：引越し用段ボール箱のおおきさまで(縦・横・高さの合計が1.5mまで)

◎送料募金のお願い
ダンボール1箱あたり、1,500円(荷物と一緒に送料を返されます。そのままだんボールまで送られてしまいます。ご面倒ですが郵便振替でご入金ください)

お知らせ

●わかちあいプロジェクト例会
8月を除く毎月第3火曜日、午後7時より例会を開いています。ご参加いたします。どうぞご出席ください。

●「フェアトレードショップわかちあい」インターネットショッピングサイト楽天にオープン

より多くの消費者にフェアトレードを知ってもらう北極星を求めてもらっけかなればと、8月19日にオープンしました。フェアトレードを知らない人がほとんど、という日本の現状の中、いかに私たちの活動を広くて広めていくか苦戦中ですが、少しずつ手ごたえも出てきています。ぜひ一度サイトへアクセスしてみてください! <http://www.rakuten.co.jp/fairtradeshop/>

●第5回カンボジア学校建設ワークショップ参加者募集中

村人が地主となり、村人の労働奉仕により行われている学校建設作業に参加します。◎期間：2003年2月17日(月)3月11日(土) ◎募 集 数：8-10名前後 ◎参加費：18万円(渡航費、現地滞在費、海外傷害保険料含む。アンコールワット観光料金は追加2万円) ◎参加者年齢：18歳～30歳 ◎活動内容：カンボジア・コンボンスプ州での学校建設ワークショップ ◎応募方法：簡単な履歴書と参加趣意(400字×3枚程度) ◎締切：2003年1月9日受付開始。定員に達し次第締め切り。受付期間1月27日まで

●国際フェアスティバが今年も開催します!

国際フェアスティバ2002が開業されて、今年も多くの参加者で賑わいました。国際協力センターの2003年の団体が所収とブースを並べ、開発途上国からの商品を販売したり活動

発行所 (株) わかちあいプロジェクト
編集者 松 傑 郵便振替口座： 00130-7-762258 (募金用)
わかちあいプロジェクト 00180-6-758331 (代金支払用)

130-0022 東京都墨田区江東橋5-3-1 電話：03-3634-7809 FAX:03-3634-7808
わかちあいプロジェクト募金 00130-7-762258 (募金用)
わかちあいプロジェクト 00180-6-758331 (代金支払用)